

7月2日の全校朝会

今やインターネットは子供たちの世界にも当たり前のように鎮座し、大きな影響力を振るっています。

様々な大切な感性が生活の中で、徐々に自然に備わることを待てず、清濁混在の情報が子供たちに降り注がれる今。

人の痛みを感じにくく、また痛むだろうとの想像も及んでいないという遣る瀬無い場面を見聞きするたびに、痛みを受けた子にこの社会を生き抜くために、どんな衣を授けてあげたらよいかと日々考えています。

学校全体として豊かな心を育てていくことと同時に、少しでも早く社会の枠組みを教えることが少しでも彼らの支えになればと切に願って、次のように話しました。

西小学校の皆さん、おはようございます。

今朝、私からは、ある本の紹介をします。

「こども六法」という本です。

ある時、この本の著者である山崎総一郎さんの記事を見つけて読みました。その内容がとても興味深かったので、そのことについて話します。

山崎さんは小学生の時に他の子供からひどい暴力を受ける悲惨ないじめに遭いました。

その時、周りの誰からも助けてもらえなかった辛い経験から、自分で自分の身を守ろうと、進学した中学校の図書室にあった「六法全書」という大人が読む、生活していく上での守らないとならないきまりが書かれた難しい法律の本を読み始めます。

そして、いじめた人たちをいつか見返すため、「弁護士になろう」と決意して、猛勉強を始めました。

そして高校、大学と懸命に勉強を続ける中で、平和な高校の3年間を思い返し、「自分と同じいじめで悩む人が出てきて欲しくない」と強く思うようになります。

山崎さんは、こう言います。

「いじめや虐待は犯罪です。

人を殴ったり蹴ったり、お金や持ち物を奪ったり、SNSにひどい悪口を書き込んだりすれば、大人であれば警察に捕まって罰を受けます。

それは法律という社会のルールによって決められていることです。

けれど、子どもは法律を知りません。

誰か大人が気づいて助けてくれるまで、たった一人で犯罪被害に苦しんでいま

す。

もし法律という強い味方がいることを知っていたら、もっと多くの子どもが勇気を出して助けを求めることができ、救われるかもしれません。

そのためには、子ども、友だち、保護者、先生、誰でも読めて、法律とはどんなものかを知ることができる本が必要」と。

そう考えて、大学院生の時に、子供が読んで分かりやすい法律の本「こども六法」を多くの人たちの支援を受け、出版します。

その本がこれです。とても分かりやすく人気で、なかなか手に入りにくい本なのですが、西小学校の図書館にありますので、興味があったら読んでみてください。

山崎さんは、初めは「自分のために」懸命に努力します。

それを続けていく中で、見たり感じたりする世界が広がり、「人のために」と舵をきります。

そして今でも、この「こども六法」を通して、いじめに悩む子供を一人でも救うことができればと活動を続け、さらに活動を広げています。その山崎さんの姿に、私は素晴らしいことだと感銘を受けました。

皆さん、是非、それぞれ、「これ」と決めて懸命に努力してください。そしてそれを続けてください。そのうちに新たに見えてくるものが必ずあります。

そして改めて。

いじめは決して、してはいけません。

いじめはされた人が嫌だ、いじめられていると思ったら、した人が遊びと思ってもいじめです。

いじめは、犯罪です。

決してしてはいけませんし、見ている知らぬ振りもしないでください。

それを皆さんに強くお願いして校長先生のお話を終わりにします。